

高校生の学習意欲向上へ連携

大学の講義受講可能に

光星学院系列4校が協定



協定書を手にする(左から)外崎充子学長、大谷真樹学長、小野崎龍一校長、橋場保人校長。7日、八戸学院光星高

八戸学院大(大谷真樹学長)や八戸学院光星高(小野崎龍一校長)など学校法人光星学院(八戸市、法官新一理事長)の系列校4校は7日、高校と大学の連携に関する協定を締結した。高校生が大学の講義を受講することが可能になる。専門性の高い大学の授業に一度早く触れさせることで、高校生の学習意欲の向上を図る考えだ。

協定を結んだのは両校のほか、八戸学院大短期大学部(外崎充子学長)と、八戸学院野辺地西高(橋場保

人校長)。

高大連携事業は2018年度からスタートし、各講義の試験に合格した高校生には大学の単位を認定する。

光星高は新2年生(現1年生)を対象とし、毎週火曜日の「総合的な学習」の時間に大学、短大の講義を受講。現段階で約100人が希望しているという。野辺地西高は、夏休みなどの長期休業期間を活用する予定だ。

同日、同市内で行われた調印式で、小野崎校長は「大學生と共に学ぶことで、興味のある分野を探る良い機会になり、学習意欲の向上にもつながる」と意義を強調。大谷学長は「系列校(八学大、短期大学部)進学のきっかけになってほしい」と期待を寄せた。(福田駿)